

O.S.P



VOL.19
August

{ OSPREY / SPIRITUAL / PERFORMER }

無料

ご自由にお取りください

O.S.Pプロスタッフが
ホームレイクを徹底紙上ガイド

The Field Guide

～北田朋也@北利根川・外浪逆浦～



新企画!!

折金一樹が釣れる秘密を暴露します!

オリキンハイマクール



Keep it
on the down low!!

—並木敏成が語る あのルアーの真実—
～YAMATOシリーズ～

新企画!!

O.S.Pプロスタッフがシーズンパターンをもとに
おすすめのルアーをご紹介します!

Pro Staff's RECOMMEND

亀山湖 / 大塚高志



O.S.P
動画

随時
更新!!

並木敏成&O.S.Pの
最新情報はこちら。

並木敏成 ↓



O.S.P ↓



Journal



Orikin High School



オリキンハイスクール

ここに開校した、オリキンハイスクール。本企画ではオリキンこと折金一樹が実践しているO.S.Pルアーの使い方をみなさんにお教えします。まずはそのルアーの特徴を知り、それからどこで、どういったときにどんな使い方をすればバスが釣れるのかをオリキンから学びます。第一講はオリキン監修で根強い人気を誇る、オリカネ虫&オリカネ虫ダディ!!

1 限目

オリカネ虫を知る。

虫ルアーが一般化する前から オリキンが密かに使っていた秘蔵のアイテム

オリカネ虫は、虫ルアーが流行る前からオリキンが密かに自作していた、門外不出のアイテム。発売から4年の月日を経てもなお、いまだその威力は健在です。オリキンいわくハイシーズンには欠かすことのできないアイテムで、トーナメント、ガイド、そしてプライベートを問わず、必ず用意しているというほど、絶大な信頼を寄せているそうです。特徴は大きく分けて3つ。まず1つめは「ハイプレッシャーに強いスモールシルエットでありながら、抜群の集魚力を持っている」。2つめは「虫ルアーにスレたバスさえもだましてしまう、極めて本物の虫に近い存在感」。そして最後は「スナッグレス性に優れながら、フッキングが非常にいい」。中でも最後に挙げた「スナッグレス性の高さ」はオリキンが溺愛している理由の一つで、パワーフィネスタックルにセットし、オーバーハングやカバーの中を果敢に攻めるという使い方をしています。虫ルアーを使う人が多くなり、バスもこれにはスレてきました。それでも群を抜く釣果を叩き出しているのは、カバーの中やオーバーハングの暗がりやバスに適度にアピールし、食わせることができるからだと言います。



2 限目

オリカネ虫ダディの存在。

より目立たせたいときはオリカネ虫ダディ バスのやる気があるときもぜひ登板させたい

オリカネ虫の発売から遅れること2年。オリカネ虫より全長で約7mm、自重プラス1.7gと一回り大きなオリカネ虫ダディが発売になりました。この使い分けをオリキンは、どのように行っているのでしょうか。「基本的にはアピールの強さです。大きさが違うので、より目立たせたいときはダディの出番。薄ゴミの中やローライトコンディション下で、シルエットの大きさを生かしてより水を動かしてバスにアピールします。インレットのような流れや泡があるようなところでも、着水で気づかせてバイトに持ち込むことが可能です」。基本的な使い方についてはオリカネ虫と同じ。次の授業を参考にしてください。

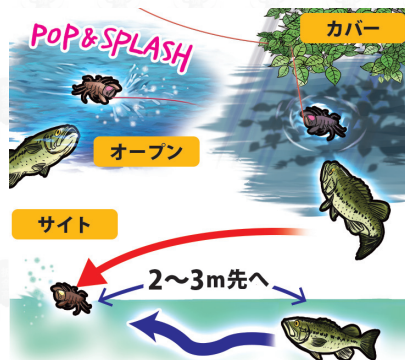


3 限目

オリカネ虫の使い方。

オープン、カバー、そしてサイトフィッシング あらゆるシーンで活躍必至のオリカネ虫

オリカネ虫が出番となるシチュエーションは大きく分けるとカバーか、それともオープンウォーターか、ということになります。オープンウォーターではカップ形状のヘッドが生み出すポップ音とスプラッシュでバスに気づかせ、寄せて食わせます。このポップ音とスプラッシュはカバーの奥に潜むバスや、一段深いレンジのバスすらも誘い出せます。カバーでの使用方法ですが、基本はチョウチン。PEラインをカバーに引っかけた状態で「吊るす→ゆっくり落とす」の繰り返し。ときには水面を叩くように波紋を出し続けて、まるで本物の虫が誤って水に落ちて羽をパタパタと動かすような動きを演出するのも有効です。バスがどの動きを好むのかによって使い分けましょう。最後はサイトフィッシング。これも非常に有効なのですが、見えるバスへの直接的なアプローチは御法度。フィールドやバスの状態にもよりますが、バスが動いているならその2~3m、前方に入れます。止まっているならバスよりもややずらした位置にアプローチ。いずれにしても、バスに自然に気づかせることが大事。アクションも不自然にならないよう、最低限、動かす程度でOKです。



4 限目

オリカネ虫の色の使い分け。

ダーク系でシルエットをはっきり見せる 食い渋るときにはあえて派手なカラーをチョイス

オリカネ虫は全16色、オリカネ虫ダディには全12色のカラーをラインナップしています。オリキンが主に使用するのはオリキンブラックに代表されるダーク系。これでシルエットをはっきり見せることを意識しています。ローライトコンディションや薄ゴミの中で使用するときなどは、バスに気づかせるために派手なカラーをチョイスすることも。また反応はするものの、いまいち、食い切らないというときはゴーストライトチャートやバブルガムピンクといった、ど派手なカラーを使ってみると劇的に反応が変わることもあるので覚えておいてください。



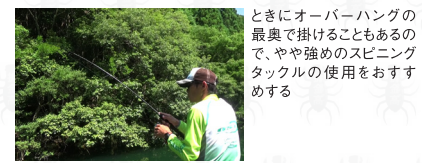
七色ダムでキャッチした55cm。オーバーハングのやや外側にキャストしたのは、オリカネ虫のオリキンブラック。45cmクラスが食うのをためらっていただけ。スワットと姿を現したこの個体が躊躇なく口にしました。

5 限目

オリカネ虫のタックル論。

ほとんどのシチュエーションをスピニングでカバー ラインはPEの1~1.5号でカバーも果敢に攻められる

オリキンがオリカネ虫、およびオリカネ虫ダディを使用する際、9割以上はスピニングタックルをチョイス。オープンウォーターであればライトアクション。ラインはフロロの4lbでOK。カバーが絡むのであればパワーフィネス。ミディアムライト、もしくはミディアム(オリカネ虫ダディ)のロッドに、ラインはPEの1号以上。オリカネ虫ダディをフロッグのように使うのであれば、PEは1.5号まで上げることもあります。ベイトフィネスタックルでもOK。ラインはシチュエーションはもちろんですが、ロッドとのバランスも考えて太さを選ぶようにしましょう。参考までにオリキンのメインタックルをご紹介します。
ロッド:ブラックレーベル691MLMFS / リール:カルディア2506 / ライン:PEパフォーマンス1号 / リーダー:ステイーズフロロtypeモンスター12lb



ときにオーバーハングの最奥で掛けることもあるので、やや強めのスピニングタックルの使用をおすすめする



オープンであればLクラス、カバーが前提、もしくはオリカネ虫ダディを使用する際はML~Mクラスのロッドをチョイス

特別講座 1

オリキンが密かに気をつけている重要事項をここで学ぶ!!

ラインテンションの操作が重要

チョウチンで誘うときに気をつけたい ラインテンションのコントロール

オーバーハングやブッシュの枝などにラインを引っかけて誘うチョウチン。ここで気をつけたいのがラインテンションです。これをうまく操作しないとバスがせつかく食おうとしたのに、ルアーが跳ね上がったままミスバイトしたり、食わせたはいけれどラインが出すぎていてフッキングに結びつかない、なんてことも… オリカネ虫が水面につかず、離れずの状態を維持できるラインテンションがひとつの目安になるので覚えておこう。



特別講座 2

オリキンが密かに気をつけている重要事項をここで学ぶ!!

リーダーをつける、つけない

PEラインを直結で使えば強度が自慢 リーダーをつければ警戒心を和らげる

パワーフィネスで使用するPEライン。細いうえに強度があるため、カバーを果敢に攻められるのが魅力。しかしクリアウォーターではこのラインの影が水面に落ちてしまい、バスが警戒心を抱いてしまうことも少なくない。そこでリーダーにフロロラインを結合することで、バスに与える警戒心を解消してくれる。しかしリーダーをつけると結び目が枝や植物のツルに引っかかってしまうことも。基本的にはPEラインを直結で使用し、状況に応じてフロロラインのリーダーを結合すればいいだろう。

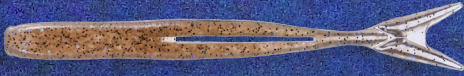


酸欠ワカサギパターン用



マイラーミノー2.5インチ

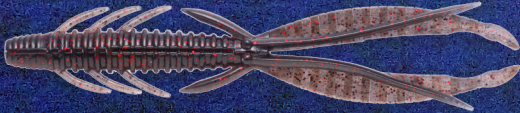
水面のピクピクで使用。バスが表層を意識しているときはこれ!



HPミノー3.1インチ

ノーシンカーリグで、表層に出ない個体を水面直下で食わせる

岬パターン用



ドライブシュリンプ4in

ヘビキャロにセットし、なだらかなブレイクをトレース。ライトキャロなら3インチをチョイス



ドライブシャッド3.5in

同じくヘビキャロで使用。バスの反応を見ながらドライブシュリンプと使い分ける。白鳥島やトキタ岬の実績が高い

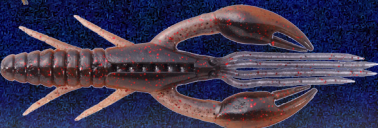
橋脚シェードパターン用



O.S.Pジグ04

シンクロECO 1.0g+
ドライブクロー2in

橋脚のシェードにタイトに落とす。縦スト+シェードの橋脚は、必ずチェックすること



橋脚とインレットは夏の定番スポット!
絶対に忘れずチェックしてください!!

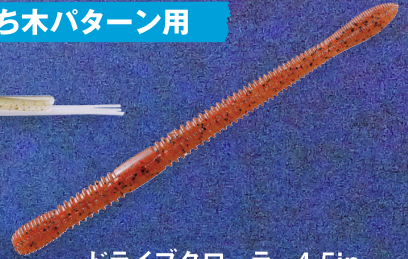


立ち木パターン用



O.S.Pブレードジグ1/4oz

立ち木に対して、タイトに通すことがキモ



ドライブクローラー4.5in

ジグヘッドワッキー、もしくはネコリグ(ネイルシンカー0.5gをボディ真ん中にインサート)で、フォール中心で誘う



ハイピッチャー3/8oz

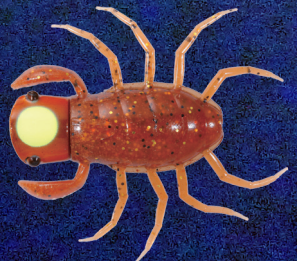
O.S.Pブレードジグでは根掛かりが多いときはこちらにスイッチ

川筋&インレットパターン用



ドライブシャッド4.5in

フレッシュな水が入るインレットでは、やる気のあるバスも多いため、巻いて食わせるといい。こちらも必ず狙いたいパターン



オリカネ虫

チョウチンで誘ったり、流れに乗せてドリフトさせるという使い方がベスト

大塚高志

千葉県
亀山湖

Pro Staff's

O.S.Pプロスタッフがおすすめる、この時期に外せないルアー

RECOMMEND

そのフィールドに精通するO.S.Pプロスタッフが、シーズンパターンをもとに必携のルアーをご紹介します。

これさえ持っていけば、確実にバスは釣れる!!

大きく分けて5つのパターンと
それぞれにマッチするルアー各種

8月の亀山湖は大きく分けて5つのパターンが存在します。まずは「酸欠ワカサギ」パターン。瀬死のワカサギが表層付近に浮きます。それを捕食するバスを狙うというもの。次に「立ち木」パターン。朝、ワカサギについていたバスが日中は立ち木にシフト。これを攻めます。そして「岬」パターン。水通しのい

い岬は、夏の定番ですね。4つめは「橋脚シェード」パターン。縦ストが形成するシェードにつくバスがターゲット。最後は「川筋&インレット」パターン。フレッシュな水が入る川筋やインレットは見逃せません。これらパターンをもとに、ぜひ使ってほしいルアーをご紹介します。

KEEP IT ON THE DOWN LOW

これは、ここだけの 秘密

並木敏成が語るあのルアーの真実と ということ

Theme

数々のドラマを生んできたYAMATO O.S.P

このパンフレットを手にした、あなただけが知ることができるあのルアーの真実と、本当の使い方。

そのフィールドの最大級を引っ張り出す ドラマチックな展開に不可欠な存在

トップウォータールアーって、投げている時間は決して長くない。クラクベイトやスピナーベイトと比較すると、遙かに少ないはず。しかしそれでもこれまでに、数々のビッグバスをもたらしてくれたのがYAMATO O.S.Pシリーズだ。釣りビジョンのロケでは七色ダムで64cm。雑誌の取材では芦ノ湖で59cmなど、そのフィールドの最大クラスの一匹を引き出すポテンシャルを持っている。今回はそんなYAMATO O.S.Pシリーズについて語ろう。

YAMATO O.S.Pはペンシルベイトとポッパーのアクションやアピール力を融合させたルアー。ペンシルベイトとポッパー、それぞれに得意とする状況があり、この劇的な釣果の差をいやというほど体感してきた。これがYAMATO O.S.Pの開発のきっかけになったと言えるだろう。



YAMATO O.S.P
全長:118mm
重量:28g

YAMATO Jr.
全長:94mm
重量:18g

今から20~30年前のこと。日本のフィールドにバスが増えはじめた、いわば「ニッポンのバスフィッシングの黎明期」。琵琶湖や霞ヶ浦で3ヶタの釣果が可能だった時代の話。リが悪いトップウォータールアーを使っていると、バスがまるでパレーボールのトスをするかのごとく、ルアーを奪い合っていたころ。そんな時代を経験しているからこそ、どんなルアー、どんなアクション、そしてどんなカラーが釣れるのかを知ることができた。

クリアウォーターの琵琶湖では、ザラスプークに代表されるペンシルベイトがよく釣れた。ただし湖面は穏やかで、バス、ベイトフィッシュともに水面近くにいるとき。そしてベイトを追ってバスがボイルしているようなときは、まるで弾丸のようにまっすぐに飛び、しかもロングキャストが可能で、より遠くからいち早く正確に、バスがボイルしている場所にルアーを届けられた。またドッグウォークアクションは水面を逃げ惑うベイトの姿を模し、非常によく釣れた。

しかしひとたび風が吹き、湖面が荒れるとペンシルベイトはポップRなどのポッパーに大きく釣り負ける。水面付近にサ



Photo by H.Yotia

雑誌の取材中に出た芦ノ湖の59cm。棧橋の下に横たわるパイプの奥で食わせ、なんとか引きずり出すことに成功した。ドラマチックな展開を見せた一匹

カナの気配はなく、取水塔やウィードなどの垂直ストラクチャーについているバスを水面におびき出すにはポッパーが有効だった。

話を霞ヶ浦に移すと、アシにせよ杭にせよ、ペンシルベイトではバイトを多くとることはできなかった。そしてたとえとれたとしても、バスのアベレージが35~40cmだったカスミ水系において、ザラスプークサイズのペンシルベイトで2本フックでは、フッキング率が悪く、モノにできないことも多かった。

また水質もマッディで、ポッパーやバズベイト、そしてノイジー系のほうが圧倒的にバイト率は高く、フッキング率も非常に高かった。

つまり、クリアウォーターで水面が穏やか。加えてベイトフィッシュとバスが近い距離にいる状況ではペンシルベイトが機能する。逆にポッパーは水面が荒れているときや、バスがウィードに潜り込んでいるなど、ペンシルベイトよりも大きなアピール力で水面まで誘い出すことが要求される場面で活躍する。この互いの弱点を補い合うかのような特徴を持たせたのが、YAMATO O.S.Pシリーズなのである。

それまでのペンシルポッパーの常識を 大きく覆したYAMATO O.S.Pの鮮烈デビュー

2006年にリリースしたYAMATO O.S.Pは、全長118mmのボディに3本のフックを搭載。O.S.Pが元祖となる横アイの採用で3本のフックが絡み合うトラブルを解消。これまで2本フックが当たり前だった時代に、この3本フックの搭載でフッキング率の大幅向上に成功した。

実際、このプロトモデルでジョン・マーレイというプロとアメリカの平均的な湖でDVDの撮影をしたとき。前で一般的なペンシルベイトを使い、スケーティングアクションで流していたジョンのバックシートから、YAMATO O.S.Pのプロトで何倍ものストライクを得ることができた。そのシーンを覚えている人も多いのでは？

ペンシルポッパーというカテゴリーはすでに存在していたが、それは単純にペンシルベイトの先端にカップを設けただけのもの。前方に引けばスブラッシュは生むものの、首を振らせるアクションで大きく飛沫を上げるような形状ではない。首振りとスブラッシュ、そしてポップ音の融合。これを求めてYAMATO O.S.Pには左右にもサイドカップ(カップ状の溝)を設けた。それまでも両サイドにエラのような出っ張りを持たせたルアーはあったが、とてもYAMATOシリーズが作り出す大きな音やスブラッシュとは比較にならないものだった。

加えて、YAMATO O.S.Pの特徴でもあるセンターボード。これを装備させたことで先端のカップ、先述した左右のサイドカップ、そしてセンターボードの3点でスブラッシュとポップ音を生む。三位一体とはまさにこのことで、どれかひとつでも欠



O.S.Pが元祖の横アイの採用でフック同士が絡み合うトラブルを解消した3本のトリプルフックが、バイトを確実に捉えてくれる。これまでの同クラスのペンシルベイトと比較して、フッキング率が大幅に向上した

ければその効果は大きく落ちる。ルアーの存在感を示すアピールだけでなく、バスがベイトフィッシュを丸呑みしたかのような「ガボン」という捕食音のような大きな音を発生し、バスの競争心および捕食心をあおるアピールは、これら3つ(サイドカップはボディの左右に配しているため、正確には4つ)のパーツが織り成すといっていだろう。

余談だが、このサイドカップを実はボディ中央や後方、そして上部にも設けたプロトもあった。しかしその効果は薄く採用は却下。大きな捕食音を出すために、こうした検証をした事実もお伝えしておこう。

センターボードがもたらす効果は絶大 音だけでなく動きやトラブル回避にも貢献

現状、YAMATO O.S.Pに設けているセンターボードの高さの最大幅は約12mm。プロト時にはこの半分ほどの高さでも検証したのだが、この約12mmに落ち着いたのにも、ちゃんとした理由がある。

このセンターボードは先にも記したように音やスブラッシュを出すために一役買っているだけでなく、ただ巻きでは水面下50cmをS字アクションで泳がせてくれる(上下にあるアイの上側にラインをセットすることが条件)。加えて、まるでクラクベイトのリップのように、水面にある浮きゴミや枝などへ、特にフロントフックが引っかかってしまうようなスタックを回避。首振りさせるときにはここで水を受けることでボディがロールしながらドッグウォークアクションを生むため、ボディに配された色調の変化や、ときに水中へとフラッシングを放つという効果も併せ持っている。YAMATO O.S.P最大の特徴は、他のペンシルベイトの釣果を圧倒する特徴だと表しても過言ではないだろう。



①上下に配列された2つのアイ。下はハイアピールアイで、通常はこちらを使用。ドッグウォークアクションさせるとロールを交えた首振りを見せる。同時にバスの捕食音のような強大なポップ音も発生。上はダイビングアイ。その名の通りダイビングペンシルのように潜らせながらの首振りアクションを可能にする。ただ巻きで使用する際はS字アクションも見せる。②ドッグウォーク時にスブラッシュとポップ音を生み出すサイドカップ。③センターボードは音やスブラッシュを出すだけでなく、S字アクションやロールを生む首振りの要であることに加えて、水面のゴミや枝などへのスタックも回避する。④横アイの採用で、3本フックが絡むトラブルを解消した

普通のペンシルベイトの約2倍! 広角首振りアクションで確実に呼び、食わせる

YAMATO O.S.Pはアイを上下に2つ配列している。下のアイは通称「ハイアピールアイ」。ドッグウォーク時に、ときに腹を真横まで振るロールを交えた首振りを見せると同時に、強大なポップ音を発する。

上のアイは通称「ダイビングアイ」。ダイビングペンシルのように潜らせながら首振りアクションを可能にする。またただ巻きで使用すれば水面下約50cmをS字アクションで突き進む。



ペンシルベイトとポッパーの、まさにいいところ取り。強大なポップ音や広範囲に水しぶきをまき散らすスブラッシュに加え、ドッグウォークアクションも得意。状況に応じてルアーを結び替えることなく使い続けることが可能

多くはハイアピールアイでの使用なのだが、何より手前に寄ってきにくく、同じ距離でドッグウォークアクションさせたとき、他のペンシルベイトよりも首振り回数を多くさせることができる。さらにその角度を広くするようなアクションを狙うと、首振り角度は180度以上と、普通のペンシルベイトの約2倍の広角ターンが可能。狭い範囲で何度も首振りアクションを入れ、バスを焦らせて食わせるにはうってつけ。ぜひ試していただきたい。

まずはバスに気づかせるために、大きなポップ音を入れる。湖面が荒れているときや水深が深い場合なども、強めのエッジが効いたロッドワークで大きなポップ音を出す。スブラッシュでアピールするのも有効だろう。これに気づいてバスが寄ってきてからは、おとなしめのトゥイッチで静かに水面を滑らせるように動かす。このメリハリのあるアクションが、これまで、そのフィールドで最大級とも言える数々のドラマチックな一匹を自分にもたらしてきた。そしてYAMATOシリーズは日本のみならず、海外のバス、バラマンディやシーバスなど、他魚種でも多くの支持を受けている。それだけ捕食音というのは、フィッシュイーターの本能を刺激するのだ。

YAMATOシリーズが発売されてから11年が過ぎた今もなお、その力は健在なのである。



釣りビジョン「Osprey's Eye」のロケ中にYAMATO Jr.で手にした、七色ダムの64cm! このような圧巻のサイズをもたらしてくれるのが、YAMATOシリーズのポテンシャル。トップウォーターは投げ時間が短いわりに、大きな結果を残してくれる、と並木

YAMATOシリーズ参考タックル

ロッド:ステイーズ・マシガンキャストtype1.5/リール:ステイーズSV TW 7.1/ライン:マシガンキャスト14lb

Field Guide

前回ご紹介した北浦と同じく、霞ヶ浦水系では人気のエリア。川を境に茨城県と千葉県に分かれており、どちらも多くのアングラーで賑わっている光景を目にする。そんな中でもよりバスが溜まるエリアを見出すことが釣果のカギ。沈みものなどの変化が多い場所を選ぶことが重要だ。

案内人はこの人

またたともや
北田朋也

営業のかたわら、スーツ姿で釣りに興じることも少なくない、この水系のスペシャリスト。おっぴろげだけでなく、バスボートを駆ってトーナメントに参戦するという一面も。足繁く通って得た経験をもとに、確実にバスをキャッチする。フィネスからムービングベイトまで、幅広い釣りをそつなくこなす絶対釣果主義のアングラー



① 銚子屋前水門

北利根川と霞ヶ浦の合流点。バスの行き来が多く、アシや水門のミオ筋に溜まることも。まずはここでフィールド全体の状況を見るのにおすすめのスポット



② 霞ヶ浦旅館前

北利根川でおっぴろげから攻められる、数少ない貴重なアシがここ。フロッグなどのトップウォーターやバックスライド系で攻めたい



《北利根川・外浪逆浦おすすめルアー①》

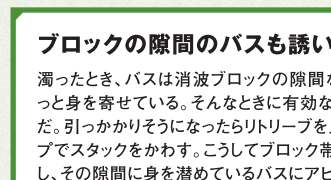
スケーティングフロッグ

ほかのルアーで反応がないときや、冠水したアシの奥にバスが入っているときに多用するのがフロッグ。スナグレス性が高く、混み入った場所でもガンガン打っていけるのが魅力。バックスライド系など、沈むと見切るバスにも有効なアイテムだ



③ 横利根川入口

手前にリップラップ、沖にブレイクが入っている。リップラップ上には本流の流れを避けたバスが溜まること多い。スピナーベイトで手返しよくチェック



ブロックの隙間のバスも誘い出せる

濁ったとき、バスは消波ブロックの隙間などに入り込み、びたっと身を寄せている。そんなときに有効なのがブリッツEX-DRだ。引っかかりそうになったらリトリブを止めて、かつ長いリップでスタックをかわす。こうしてブロック帯を縫うようにトレースし、その隙間に身を潜めているバスにアピールするのだ。



ブリッツEX-DR

長いリップでスタックをかわしながら、慎重にリトリブすることでブロックの隙間に潜むバスを誘い出す



⑭ 日の出地区ワンド

ワンド状の地形に水門が3つ連なっている。沈船や杭などのストラクチャーが豊富。水門から流れてくるザリガニを待っている個体も少なくない



⑮ 鯉川樋門

奥田さんがルアーマガジンの「陸王」で大逆転劇を見せた場所。外浪逆浦が荒れたとき、バスがこの消波ブロックに避難してくる。水門からはミオ筋も伸びている



⑤ ボートハウスいずみ屋対岸

水門からはバスの格好のえさとなるザリガニやカエルが流されてくる。水門出口のキンチャクにはエビや流されてきたゴミが堆積しており、そこにバスがつく



⑦ 潮来大橋 (千葉県側)

橋脚周辺にブレイクがあり岸に寄っているため、おっぴろげから攻めることが可能。ハードボトムになっており、フットボールジグやライトリグがおすすめ

⑥ 大割排水機場前

コンクリートが入っており、割れ目などの変化にバスがつく。与田浦から供給されたバスのつき場となる

④ 夜越川対岸

アシはもちろん、イカリや鉄パイプなど、豊富なストラクチャーが魅力。ここもバスのストックが多い

① 銚子屋前水門

②③ 牛堀消波ブロック

② 霞ヶ浦旅館前

③ 横利根川入口

④ 夜越川入口

ボートハウスいずみ屋対岸 ⑤

《北利根川・外浪逆浦おすすめルアー②》

ハイカットF

中層を速めるのリトリブで使用。浮いているバスをリアクションで食わせるのが狙い。フィネスに反応が悪くなってきたときに試してほしい



目に見えるシェードだけでなく 水中にできる「影」にも注目

夏本番を迎える8月。暑さを避けたいのはバスも人間も同じところ。基本はシェードと水通しだが、ただ目に見える「影」だけを追っているのは釣果を伸ばすことはできない。晴天無風の日中はバンク沿いのシェードだけでなく、水中にある「影」にも注目。ゴロタが形成するシェードにバスがついていることも多く、あまり目につかないため、一人勝ちできることも少なくない。北田はこういふとき、ダンクやO3ハンツなどで丁寧に探っていくという。

人気エリアだけに 丁寧な攻めが 釣果につながる!!



メインベイトはエビ系。6月ごろから産卵のため岸に寄り、それをバスが捕食するのだ。またゴリなどのハゼ系も、この時期には軽視できない存在だ。イナッコが表層付近にいる場合は、トップウォーターもおもしろい。バスがそのとき、何を捕食しているのかで、ルアーを変えることが重要だ。



⑧ 鹿島線鉄橋下 (千葉県側)

橋脚周辺で3mぐらい、手前で1mぐらいのブレイクになっている。沖まで出ているアシやそのエグレにもバスがストックされている



⑨ 北利根右岸 2.00km 地点


バンク際のアシの先から深くになっている。バスはこのアシとブレイクを行き来しており、入っていれば連発することも。減水時にも強いスポット



⑩ 外浪逆浦入口

流れが当たるところにリップラップが入っている。ここにエビやベイトが寄せられ、当然、デカバスも入ってくる。スピナーベイトやジャークベイトで実績高し

フィネス→リアクションで獲りもれナシ!



確実にバスをストックする人気エリアでは、やはりフィネスが強い。しかしそんなフィネスでも反応が薄くなれば、ジャークベイトやシャッドの速巻きなどのリアクションが俄然、強くなる。朝夕は巻き物で効率を優先。フィネスに代えて、確実に食わせる。最後はリアクションバイトの誘発。これで獲りもれナシ!

《北利根川・外浪逆浦おすすめルアー③》

HPシャッドテール2.5インチ

ハイプレッシャーでありながらも、バスを確実にストックするエリアではこれ。ダウンショットでじっくり、丁寧に探れば確実に反応を得られる。北田も絶大な信頼を寄せる存在だ




⑱ 鹿島線鉄橋下 (茨城県側)

沖に縦ストラクチャーが点在。大きな沈みものもあるため、丁寧に探ってみよう。ローライトでは巻き物も有効



⑳ 潮来港

JBトーナメントの会場になっている。アクセスがよくハイプレッシャーなので丁寧な攻めが要求される。潮来大橋周辺は地形が複雑でブレイクも近い



㉓ 牛堀消波ブロック

北斎公園の消波ブロック帯。シーズンを通じてバスをストックしており、当然、プレッシャーも高い。しかし丁寧に探れば、必ずバスに出会えるエリア



㉑ ボートハウスいずみ屋前水門

ドックにつながる水門でミオ筋が入っている。水門の出口にはキンチャクもあり、こちらも見逃せない



㉒ 夜越川入口

北利根川の合流点付近では、夜越川から流れてくるベイトを待っているバスも多い。河口左側には浅いリップラップが広がっている。ブリッツで手早く探り、ライトリグでより丁寧に探ってみるといい